

飯伊 産業経済動向

No.455 2017/2
(29. 3. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,713	枚	△	6.0 %	△	18.0 %
	金額	5,233,036	千円		3.0 %	△	1.1 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 4 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	0	千円	(前月 682 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	4	件	(前月 6 件)		(前年同月 9 件)	
	飯伊	1	件	(前月 2 件)		(前年同月 1 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(1月)		56	戸		12.0 %		51.4 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(1月)		1.51	倍	(前月 1.64 倍)		(前年同月 1.43 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,441	台		21.3 %		4.6 %
	中古車	542	台		40.1 %	△	5.4 %
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会)(1月)	新車	3,557	台	△	3.3 %	△	6.6 %
	中古車	586	台	△	22.2 %		1.0 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	95,439	台	△	7.5 %	△	1.8 %
	出	96,231	台	△	6.4 %	△	2.7 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	62,736	台	△	6.4 %		0.1 %
	出	61,056	台	△	3.3 %		2.3 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	12,517	台	△	6.6 %	△	14.3 %
	出	12,852	台	△	5.7 %	△	15.6 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	32,609	台	△	7.1 %	△	6.2 %
	出	31,973	台	△	4.8 %	△	8.4 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		159	件		37.1 %	△	1.2 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		15	件	(前月 4 件)		(前年同月 7 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	22,454	人	△	15.2 %	△	1.9 %
	飯田～名古屋	16,616	人	△	2.7 %		10.0 %
	飯田～長野	8,629	人		0.7 %		0.1 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,180	人	△	2.6 %	△	5.3 %
	右回り	3,199	人	△	3.8 %	△	2.6 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当相談所が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに進めています。



100%植物性インキ
[リサイクル紙100%]を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

2月の製造業の業況判断指数(DI)は、プラス35.5で、前月から23.0ポイント上昇。翌月予測もプラス28.1で、前月から5.5ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の販売の前月比は、横ばい～増加。一部に景況感が好転した業者も見受けられた。半導体、液晶製造装置向け部品の受注、販売の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、やや増加～増加との声が多く、一部に景況感が好転した業者も見受けられた。産業機器や医療機器等部品の受注の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、やや増加～増加との声が多い。「急増中」「仕事はやや動き出している」などの声が聞かれ、景況感が好転した業者が多い。建築用金属製品の売上は、「年度末の関係」もあって前月比増加。景況感も好転しているが、前年比はやや減少との声が寄せられた。自動車向け部品の販売は、前月比やや増加、前年比は業者により増減分かれる。景況感に動きは見られない。小型電磁機器の生産は、前月比概ね横ばい。一部に前年比は増加との声も聞かれたが、当月の景況感に動きは見られない。FA関連モーターでは、受注は「産業機械向け、車載向けとも微増で推移」しており、先行きもこうした基調が続く見込みで、景況感も好転との声が寄せられた。光学機器や同部品の受注、販売は、業者により増減分かれるが、景況感の悪化は見られず、却って好転した業者も見られた。電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も好転しているが、人材不足がボトルネックになっているとの声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は横ばい～やや増加。前年比は増減分かれるが、やや減少したとする業者にあっても「景況はやや上向き。このまま定着してくれることを願っている」など景況感が悪化した業者は見られない。水引製品の販売の前月比は、横ばい～やや増加。「正月ものの返品が減り、売上が若干増えた。今月は正月ものの反省と盆用品の受注が始まる忙しい月だった」などの声。漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比がやや減少、「主力商品の動きが鈍い月だった」との声が寄せられた。

建設業

2月の建設業の景況DIは、マイナス6.3で、前月から12.5ポイント上昇。翌月予測DIも、プラス6.3で、前月より19.6ポイント上昇している。

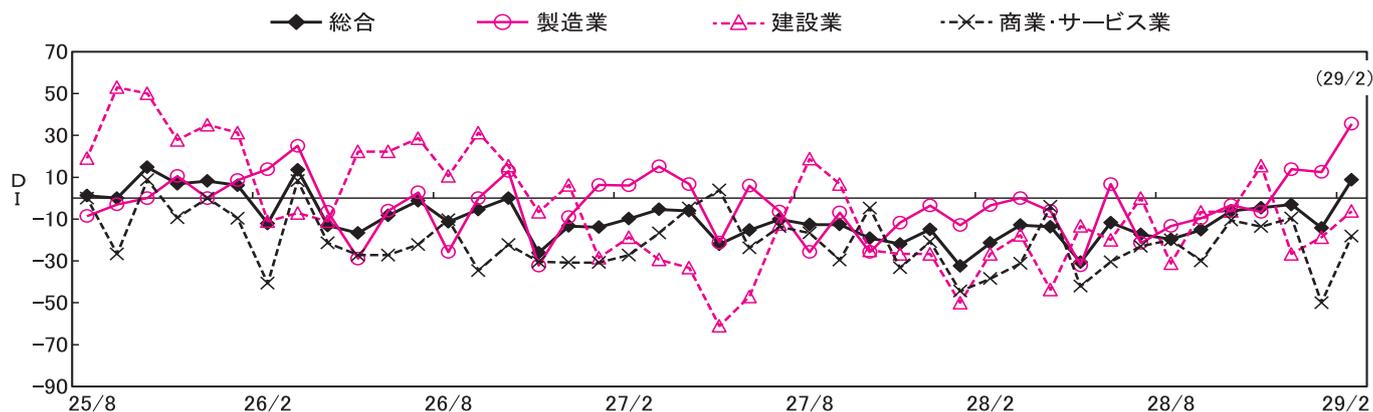
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約5.9億円で、前月比は58%減少、前年比も43%減少している(3月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや増加との声も複数あるが「新規の受注が少ない」「受注は低調」などやや減少～横ばい。こうした中、受注競争は激しく「公共工事依存の会社は厳しい」という。

民需の住宅着工戸数(1月)の住宅着工戸数は56戸。前月比は12%増加、前年比も51%増加している。当月の調査先業者の受注残高の前月比は、一部にやや減少との声も聞かれたが、概ね横ばい。一部に景況感が好転した業者も見受けられた。

商業・サービス業

2月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス19.0と、前月より28.8ポイント上昇。翌月予測DIも、マイナス4.8で、前月より23.8ポイント上昇している。食料品の売上の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、やや減少～横ばいとの声が多い。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加。家事用品卸の売上は、やや減少という。「2月は天候が良かったので冬物がもう少しというところで落ち着いてしまった」などの声。家電の売上は、前月比横ばい～やや増加。OA機器の売上は、前月比やや増加、年度末の需要期を迎えて、少しずつ忙しくなっている」など景況感はやや上向きとの声が聞かれた。衣料品の売上の前月比はやや減少。娯楽用品の売上は、前月比、前年比ともにやや減少との声。土産物関連の売上の前月比は、業者により増減分かれるが、景況感総じて悪化している。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比21%増加、前年比も5%増加。1月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比3%減少、前年比も7%減少。自動車販売、整備の売上は、「新車台数は減ったが中古車が良かった」など前月比増加との声が寄せられた。市内料理店の売上は、前年比やや減少。市内旅館の売上は、前月比、前年比ともやや減少という。昼神温泉の売上は、概ね横ばい。「日帰り客が減少したが、宿泊客でカバーし前年同月並み」「プロジェクトマッピングには様々な声もあるが、これをバックにした商品で売上が出るようになった。やはり星に期待する」などの声。タクシーの売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。

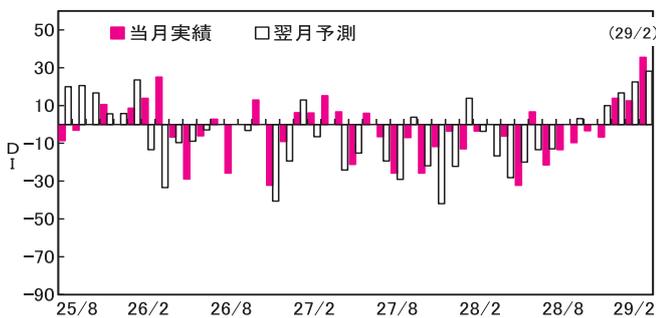
飯伊地区景況DI (本誌調査)



製造業

地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績	35.5	(前月 12.5)
翌月予測	28.1	(前月 22.6)

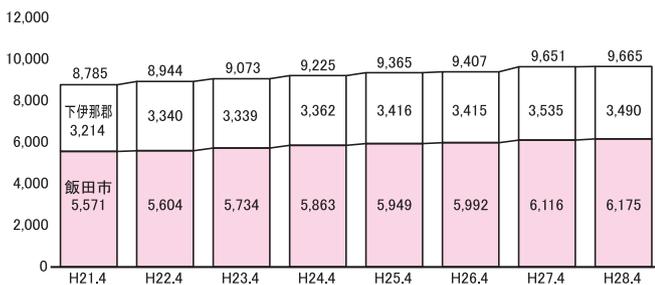
当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス35.5で、前月から23.0ポイント上昇。翌月予測もプラス28.1で、前月から5.5ポイント上昇している。

飯田商工会議所の「人口動態と経済センサスから見る事業所動向」によれば、平成21年度と26年度の経済センサスによって当地域の民営事業所数の増減を見ると、「全体的に減少する中で、医療・福祉が増加となっている」という。

	飯伊				県計			
	H21	H26	H26/H21 増減数	H26/H21 増減率	H21	H26	H26/H21 増減数	H26/H21 増減率
農林漁業	112	108	-4	-3.6	1,074	1,111	37	3.4
鉱業・採石業	15	11	-4	-26.7	126	59	-67	-53.2
建設業	1,439	1,201	-238	-16.5	14,551	12,409	-2,142	-14.7
製造業	1,134	1,037	-97	-8.6	12,317	11,418	-899	-7.3
電気・ガス・熱供給・水道業	12	17	5	41.7	128	140	12	9.4
情報通信業	60	53	-7	-11.7	1,121	908	-213	-19
運輸・郵便業	207	155	-52	-25.1	2,220	1,939	-281	-12.7
卸売・小売業	2,433	2,130	-303	-12.5	28,711	25,693	-3,018	-10.5
金融・保険業	158	131	-27	-17.1	1,763	1,601	-162	-9.2
不動産・物品賃貸業	588	558	-30	-5.1	8,012	7,366	-646	-8.1
学術研究・専門・技術サービス	369	342	-27	-7.3	4,411	4,228	-183	-4.1
宿泊・飲食サービス業	1,304	1,199	-105	-8.1	17,323	16,168	-1,155	-6.7
生活関連サービス・娯楽業	829	779	-50	-6.0	9,259	8,870	-389	-4.2
教育、学習支援	228	206	-22	-9.6	2,997	2,977	-20	-0.7
医療・福祉	544	652	108	19.9	5,835	7,040	1,205	20.7
複合サービス事業	104	90	-14	-13.5	1,052	965	-87	-8.3
その他サービス業	578	563	-15	-2.6	6,848	6,601	-247	-3.6
全産業（公務を除く）	10,114	9,232	-882	-8.7	117,748	109,493	-8,255	-7.0

両調査によって増加した医療・福祉の内訳をみると、医療業も14事業所の増加となっているが、「特別養護老人ホームや訪問介護事業所を始めとする社会福祉、介護事業が介護認定者数の増加に連動して伸びている」といい、「これは全県的な傾向」という。

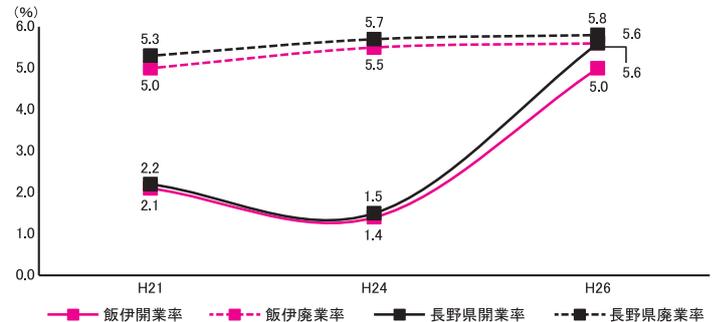
■飯伊地域の介護認定者数（要支援1～要介護5）



対象期間の新設（廃業）事業所を年平均にならした数を分子とし、期首において既に存在していた事業所を分母にした百分率と定義される、開（廃）業率を当

地域について見ると、「2008年のリーマンショックの影響で開業率は落ち込んでいたと推測されるが、その後は商工団体、行政、金融機関等による創業支援の強化で開業率は上向いてきている」という。

開業率、廃業率の推移



（図表、引用ともに飯田商工会議所「人口動態と経済センサスから見る事業所動向」）

機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売の前月比は、横ばい～増加。一部に景況感が好転した業者も見受けられた。「前月比、前年比とも大幅増加だが、四半期通して考えたい」「大型機械の増加で受注が増えている」などの声が寄せられた。先行きの見通しは明るいとの声が多い。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面で、「不足」「人員不足で派遣を増やしているが、受注の増加に対応するために交代勤務を含めて考えていかなければならないと思っている」など不足感を指摘する声は多い。設備面では概ね現状維持の様子。

半導体、液晶製造装置向け部品の受注、販売の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、やや増加～増加との声が多く、一部に景況感が好転した業者も見受けられた。「スマホ関連装置向け増産」「三次元、メモリ向け装置増産」「FPD向け装置増産」「急増中」などの声が聞かれ、多くの業者で「前倒し生産を含め」製品在庫が増加、ないしは増加見込みという。先行きも生産の増加を見込む声が多い。雇用面で「不足。しかし人が来ない」「現状は派遣で対応。新卒者若干入社予定」などの声。設備面でも「更新設備投入決定」「次月予定」などの声が聞かれた。原材料、資材価格に関し、「アルミ、ステンレスともに上昇」しており、先行きも上昇基調にあるとの声は多い。

産業機器や医療機器等部品の受注の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、やや増加～増加との声が多い。「棚卸、在庫調整で品物の動きが悪い」「医療機器向けは低空飛行中」などの声もあるものの、「急増中」「仕事はやや動き出している」「相変わらずロボット関連が忙しい」「受注は堅調。極端な受注増加で納期遅れも。既存の戦力に加えて外注化で解消する」「1月よりは動きが良い。今月前半から動き出している」「同業も皆さん忙しいそうだ」「前年は大物が動いたので売上の前年比は減少しているが、今年は中物が動いている」などの声が聞かれ、景況感が好転した業者が多い。「納期が長くない」「短納期の案件が増加」といった声が聞かれ、こうしたことから「在庫量に大きな変動はない」「対応できる体制が必要。設備の稼働率を上げる取組を進める」などの声が聞かれた。

「鉄等今月キロ当たり5円上昇。次月にも値上げがある」など原材料、資材価格がやや上昇との声が複数聞かれたほか、先行きの上昇を見込む声は更に多い。製品価格に関しては、一部に上昇したとする業者もあるが、「親会社からコストダウンの要請があり、部品によっては10%程度下落」「変わらないが、依然厳しい」などの声が寄せられた。雇用面では、「やや増員

した。今後は現状維持」「一人予定あり。その後は未定」「パートで増員」「複数名採用。新卒者数名予定」などの声。設備面では、現状維持との声が多いが、「やや増強した」「複数台予定」「予定あり」などの声もある。

建築用金属製品の売上は、「年度末の関係」もあって前月比増加。景況感も好転しているが、前年比はやや減少との声が寄せられた。先行きは増加が見込まれているが、「依然発注が遅れている。今秋以降は明るい、それまでは少し厳しいかもしれない」という。原材料、資材価格に関し、「まだまだ上昇傾向にある」との報。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比やや増加、前年比は業者により増減分かれる。景況感に動きは見られない。一部に、先行きの増加を見込む声も。「車種によって好調なものがあり、増産が続いている」などの声が聞かれた。「輸送業者から値上げの依頼があった。応じざるを得ないと考えているが、上げ幅によっては価格転嫁が必要になりそう。材料費も値上がりが見込まれる」との声が寄せられた。雇用面で「依然人手不足。ハローワーク、派遣会社問わず人材がおらず、依頼しても紹介件数は少ない」という。

小型電磁機器の生産は、前月比概ね横ばい。一部に前年比は増加との声も聞かれたが、当月の景況感に動きは見られない。先行きは、横ばいないしは弱含みという。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。一部に製品価格の若干の下落を見込む声がある。雇用面では適正との声が多い。設備面で一部に積極的な声が聞かれた。

FA関連モーターでは、受注は「産業機械向け、車載向けとも微増で推移」しており、先行きもこうした基調が続く見込みで、景況感も好転との声が寄せられた。

光学機器や同部品の受注、販売は、業者により増減分かれる。景況感の悪化は見られず、却って好転した業者も見られた。当月、原材料、資材価格がやや上昇した様子。「1月に一人。3月に一人増員」「人が確保しづらい。努力中」など増員を図っているとの声は多い。設備面でも先行き積極的な声が複数聞かれた。

電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も好転との声が寄せられた。「新製品開発の依頼も増えているが、要員不足で対応できない。外作化や人材派遣等の検討も進めているが見通しが立たない」など人材不足がボトルネックになっているとの声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は横ばい～やや増加。前年比は増減分かれるが、やや減少したとする業者にあっても「景況はやや上向き。このまま定着してくれることを願っている」との声が聞かれたほか、「稼働日が1日少ないが、前年対比をクリア」「売上、受注とも2月にしては順調だった」など、景況感が悪化した業者は見られない。先行きも生産の増加を見込む声が多い。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面で、「人手不足」「1～2名程度の増員」などの声も。設備面では、「実施中」との声もあるものの、現状維持との声が多い。

水引製品の販売の前月比は、横ばい～やや増加。「正月ものの返品が減り、売上が若干増えた。今月は正月ものの反省と盆用品の受注が始まる忙しい月だった」「2月は見積や問い合わせが頻繁だった。なかなか取引には至らないが、小さいが二、三注文になったものもある」「新しい何かを見つけようとしているのか、他業種から見積、見本出しの依頼が来ている。水引を利用してもらえる機会が増えているのかもしれない。利益が少なくとも広げる機会を逃さないよう全力を尽くす」などの声が寄せられた。原材料、資材価格に関し、「海外からの値上げ要請は一部に止まった。直ちに需要増につながるとは思えないが、今年は国内向けの値上げなしで行ける見込み。今後も世界経済や

為替相場の動きに目が離せない」との声。一部に、雇用面で積極的な声が聞かれた。

漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比はやや減少、「主力商品の動きが鈍い月だった」との声が寄せられた。雇用面で「職種により募集」との声。「地元には、甘酒の動きが良く製造が追いつかないとの声もある」という。

その他製造業

食品関連包材の生産は前月比、前年比ともに横ばいとの声が寄せられた。原材料、資材価格に当月大きな動きはなかったという。

印刷、出版関連の売上は、前月比やや増加も、前年比はやや減少との声が寄せられた。雇用面で「職種によっては応募がない。求人を継続」との声。仕入に関し、「製紙会社が4月出荷分から流通業者への販売価格を値上げする動きがあるという。まだ具体的なものではないが、仕入にどのような影響があるか不安は大きい」「当地区もそうだが、印刷会社が減ってきている。そうしたことの影響もあるのだろうが、他地区の印刷資材会社で他社との事業統合が進んでいる。当社は統合する側、される側いずれとも取引がある。大きな影響はないと思っているが、若干の不安もある」との声が聞かれた。

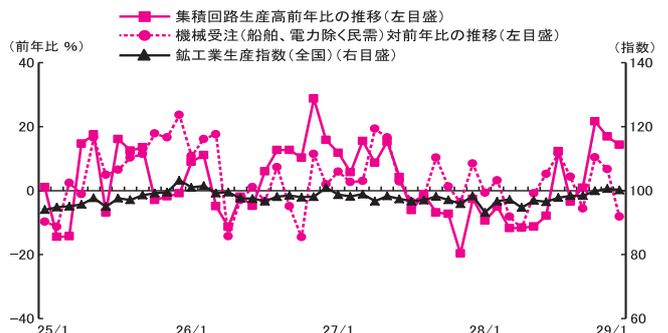
衣料品の受注残高は、前月比、前年比ともにやや減少も、販売は前月比、前年比ともにやや増加との声が寄せられた。「例年よりも店頭に出回る量が少ない。百貨店の売上も最悪だが、在庫はそこそこ処理できている」との声。先行きは生産の増加を見込んでいるという。「軽衣料の動きが良くなってきている。単価も下げ止まり」「仕事が偏り、工場によっては仕事がないところもある様子」などの報が寄せられた。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。人員不足が依然続いているという。設備面では当面現状維持との声が寄せられた。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器など家具の生産は、前月比、前年比とも増加との声が寄せられた。「昨年から一向に上向かなかったが、一気に流れ出した感」など景況感も好転している。「一気に噴き出した状態のため消化しきれず、納期対応が問題。4月の新規卒者の入社を待って、現状は休日出勤、残業で何とかしのいでいる」という。先行きは「量の面から見て、現状が長続きする性質のものとは思えない。数か月後には元の状態に戻ると予想している」との声が聞かれた。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。設備面で積極的な声が聞かれた。

【企業からのコメント】

- ★設備が限界。数年かけて更新していければと考えている。
- ★某社のある事業部を買収予定。
- ★加工部品のすべての分野で忙しくなっている。
- ★依然、米国の政権交代による変化を注視している。
- ★車の設備向け、特に海外向けの動きは今一つ良くないようだ。

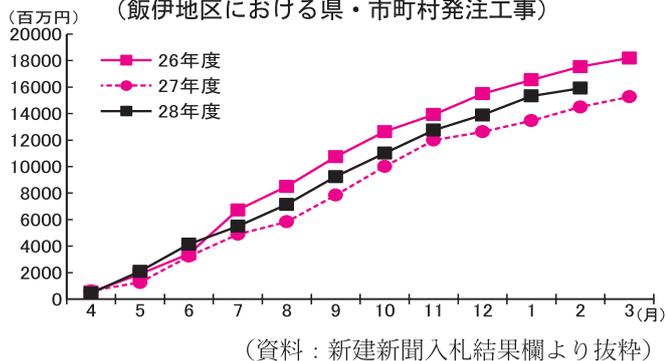
集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



建設業

入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新建新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI -6.3 (先月 -18.8)

翌月予測DI 6.3 (先月 -13.3)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約5.9億円で、前月比は58%減少、前年比も43%減少している(3月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや増加との声も複数あるが、やや減少～横ばい。「土地の保有が有利に働く場合もあって1～2月の仕事量は十分」などの声もあるが、「新規の受注が少ない」「受注は低調」「国、県、市とも発注になっているが、全般的に少ない。当社は幸い受注があったが、まだまだ不十分」「相変わらず官公庁工事の発注量は少ない」「年度末だが、工事の集中がそれほどでもなく思ったほど忙しくない。工事量が少ない中、手持ちが支えになって何とか凌いでいる」「一部の業者に仕事はあるが、そうした業者でも技術者数からすると少ないという」「今後当社にも入札資格のある大型工事がいくつか予定されている。受注できればよいが」などの声が多い。また、年度末が近いにもかかわらず完工高が増えたとする声は多くはなく、「工期が来て終わるものばかり。期毎に完工高の目標もあるのだが」との声も。

こうした中、受注競争は激しく「一物件に何社も応札があり中々受注に結び付かない」「発注量激減で競争激化」「くじ引き競争が熾烈で受注見通しが立たず、疲弊している」「全般に仕事が少ない中競争が激しい」などの声が聞かれ、「4月以降の仕事の手配に困っている業者がほとんど」「各社が厳しい状況にあるのではないかと思う」「公共工事依存の会社は厳しい」という。

雇用面では現状維持との声が多いが、「施工職募集中」「一名退社。4月から新入社員入社」などの声が聞かれたほか、「過剰気味だが補充する。リニア関連で求人があると言うが、実際は団塊世代のリタイアに伴う補充が多いのではないか。当地域では各社とも昨年の経営審査時点よりも技術者数が減少してきており、技術者、技能者確保が会社存続の鍵となっている」との声が寄せられた。

民需

当地区の1月の住宅着工戸数は56戸。前月比は12%増加、前年比も51%増加している。

当月の調査先業者の受注残高の前月比は、一部にやや減少との声も聞かれたが、概ね横ばい。一部に景況感が好転した業者も見受けられた。

「新築受注なし。小規模リフォームのみ」「新築住宅は春になってポツポツ動き出したが、リフォームは鈍い」「民間工事は小売や福祉を中心に堅調と思う。製造業でも大型案件があった。新設住宅も好調で人手不足が改善されず、労務費、資材費が上昇しつつある」などの声が寄せられた。

構造別1㎡あたり工事費予定額(円)(平成28年計)

	木造	鉄骨鉄筋 コンクリート造	鉄筋 コンクリート造	鉄骨造	コンクリート ブロック造	その他
全国計	165,979	308,361	254,220	204,102	180,088	113,438
長野	182,167	355,731	286,662	201,046	143,678	57,532
飯伊地区	178,608					

*飯伊地区は伏字のある市町村を除いた総数で算出

(国土交通省:「建築着工統計」)

建築着工統計によって建築物の構造別に1㎡当たりの工事予定額を見ると、木造建築物は、鉄骨鉄筋コンクリート造の約5割、鉄骨コンクリート造の約6割(全国計)となっている。当地区の木造建築物の1㎡当たりの工事予定額は全国計よりは高いが、47都道府県で一、二を争う長野県のそれよりは低い。木造建築物については統計調査でも扱っているの併せてご覧ください。

建設資材

塗料、建設資材の売上は、前月比概ね横ばい～やや増加、前年比やや減少。一部に仕入価格が僅かに上昇したとの声も。一部に雇用面で不足感があるとの声が聞かれた。

鋼材の売上は、前月比やや増加、前年比概ね横ばい、「月半ばに少し動きがあって前月比増加。1月に比べ若干上向きか」など景況感も好転との声が寄せられた。もっとも、「製造業は繁忙感が出ているが、建設系は低迷しており先行きも不透明。総じて回復期に入ったとまでは言えない」という。仕入価格に関し、「大きな変動は未だ見られないが、一部鋼種でジリ高」との声が寄せられた。

生コンの売上は、前月比やや増加～増加。前年比は業者によって増減分かれる。地域によって「先月より出荷があった。国交省関連の堰堤工事、三遠南信自動車道関連の工事が順調に打設でき、忙しかったように見える」との声の一方、「前年比では大きく減少。安定した出荷が見込める大型工事がなく、官民需、土木、建築問わず小ロットで出荷量は低調。次月も大型工事がなく大きく増える要素はないが、前年並みは確保したい」といった声が寄せられた。設備面で「リニア対応で考慮中」との声。

骨材等の売上は、前月比は業者により増減分かれる。前年比は減少。景況感も温度差があり、「やや減少」など悪化との声や、「悪いながらも思ったより売上が確保できた。受注状況などを見ると最悪という感じではないが、良くはない。天竜峡～飯田東インターの終盤工事が複数発注され期待できるが、それだけでは十分ではなく新年度の各官庁の発注に期待する」などの声が寄せられた。「新年度から若手を増員」との声が聞かれた。

【企業からのコメント】

- ★地元業者からは、年度末に向かい手持ち工事が終了していくため、先が見えないとの声が聞かれる。
- ★社員の定年などで身軽になった分、請負工事の選択が可能になった。自社見積工事も増加している。
- ★平成29年度に期待する。

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

2月 ○下伊那地方事務所

新築 9件 (前年 10件)

増築 2件 (前年 2件)

○飯田市役所分

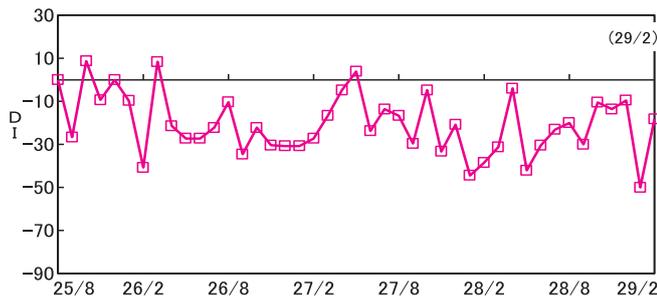
新築 15件 (前年 15件)

増築 2件 (前年 1件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI	-19.0 (先月 -47.8)
翌月予測DI	-4.8 (先月 -28.6)

商業

食品の売上の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、やや減少～横ばい。先行きはやや増加を見込む声が多い。「フランチャイザーの統合効果が出ているフランチャイザーも多い。期待したい」などの声が寄せられた。雇用面で一部に「正社員募集中」との声。

【青果卸売市場】

売上は前月比、前年比とも減少という。野菜は、「野菜の価格は一昨年並みではあるが、白菜・人参・キャベツは相変わらずの高値の一方、きゅうりをはじめ果菜類は2～3割の安値。全体では入荷量9%減の価格は2%高」という。果実は、「温州みかんは入荷量も多く順調な販売となったが、ふじと干し柿は不作により大幅な入荷減が響き、全体では入荷量11%減の価格も8%安。今後雑柑橘の販売に期待したい」との声。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加。今後の売上もやや増加を見込んでいるという。

家事用品卸の売上は、やや減少という。「2月の天候が良く冬物がもう少しというところで落ち着いてしまった」「それほど寒くなかったためかカイロも思うほど出荷が伸びず、防寒衣料も思うほど売れなかった」等の声。雇用面で「半年かかったが1名採用。安堵した」との声が聞かれた。

家電の売上は、前月比横ばい～やや増加。「今年に入ってテレビ、照明が出た」「制御機器関係は自動車産業を中心に好調だが、価格競争が厳しく利益の確保が難しくなってきた」「石油給湯器からの入れ替えが主だがエコキュートが伸びてきている。しかし、新築物件ではハウスメーカー支給で納品され、商売にならない」「LED照明は伸びているが、家電品は低迷」などの声。

OA機器の売上は、前月比やや増加。「例年のように年度更新の時期の大型案件が仕込めていないため年度末の予想が立てにくい」ものの、「年度末の需要期を迎えて、少しずつ忙しくなってきた」など景況感の上向きとの声が聞かれた。

衣料品の売上の前月比はやや減少、「業界は依然厳しい」との声が寄せられた。

娯楽用品の売上は、前月比、前年比ともにやや減少との声。

土産物関連の売上の前月比は、業者により増減分かれるが、「通行量の減少で売上は減少。積極的対応策が無い」など景況感総じて悪化している。雇用面では積極的な声が複数ある。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比21%増加、前年比も5%増加。中古車は、前月比40%増加も、前年比は5%減少。1月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比3%減少、前年比も7%減少。中古車は前月比22%減少も、前年比は1%増加した。

自動車販売、整備の売上は、「新車台数は減ったが中古車が良かった」など前月比増加との声が寄せられた。

。「3月は1年のピーク。どこまで台数を伸ばせるか」など先行きは増加が見込まれている。「前月、前年に比べて仕入れる中古車の平均単価が上昇。それに伴い販売単価も上がっている」という。「長野、松本には大手の中古車買取販売会社が進出してきた。大量の商業用を打つので当地区への影響も予想されるが、お客様には丁寧に対応して1件1件商談を成立させていくことに努力することが、今できる大切なこと」との声が寄せられた。

サービス業

市内料理店の売上は、前年比やや減少。「2月の売上は昨年より減少したが、今年も減少」「2月に入り客数が減っていることで売上は減少したが、会社関係よりも個人のお客様が多く一件当たりの客数が減っただけで、予約数自体が減少したわけではないのであまり心配はしていない」などの声。「政治・経済が不安定の中、先が見えず不安を感じる」「客席をテーブルに変えたいが、子連れ客のこともあり悩んでいる」などの声が寄せられた。

市内ホテル、旅館の売上は、前月比、前年比ともやや減少という。

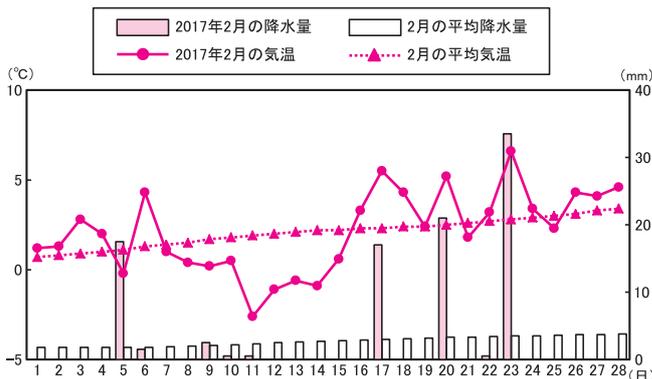
屋神温泉の売上は、概ね横ばい。「先月より人の動きは出てきているものの売上は今一つの感」「日帰り客が減少したが、宿泊客でカバーし前年同月並み」「早く花が咲きだして活気が出ることに期待」などの声。「ふるさと一座の集客が昨年までより少ない。客層がお年寄りから若い人へ変わったことが影響しているのではないか」「プロジェクトマップには様々な声もあるが、これをバックにした商品で売上が出るようになった。やはり星に期待する」「客層が若くなると、土産物の消費が少ない、2名1室の利用が多く定員稼働率が下がるなどの変化が起こる。これに対応した街づくり、企画作り、施設づくりを考えないとお客様が離れてしまうという危機感がある」などの声が寄せられた。

タクシーの売上は、前月比、前年比ともやや減少、「夜間需要の回復は未だ見えてこない。改正タクシー特措法に基づき県下に四つある準特定地域の中でも当該地域の落ち込みは激しい。売上が戻らなければ深刻な問題になる。リニア関連需要に期待」「高齢化に伴う労働力不足も深刻」などの声が寄せられた。「目先の考えではなく、労働力確保、乗務員の労働環境の向上の為に、今後の認可運賃、輸送の効率化を検討していく必要がある」「継続的にサービスを提供するために業界が何をしなければいけないかをまとめて考える時期である」等の声が聞かれた。

【企業からのコメント】

- ★地方は景気動向が悪い。お金を使わない。
- ★消費が上向いてこない中で、リニア関連による需要の増加に期待するところ。
- ★日々の地道な営業活動が、これからの時代大きな格差になっていくと思う。

飯田の気温と降水量



流れ雲の目(16) 遠くて近い町 飯田

飯田信用金庫 経営相談所
専門アドバイザー 小泉 敏郎

45年前この地域に初めて来た。車に同乗してきたのでどのルートで来たのか覚えて無いが一日仕事だった気がする。一月の小雪の舞う暗くてとても寒い日だったことは鮮明に記憶している。なんと暗くて寒い処に来たのだろう、まるで陸の孤島だ。上片桐の駅前旅館に一週間ほど逗留した。相部屋だったような気がする、それにしても寒い。布団を頭から被って縮こまって寝た。早く東京に帰りたいと願った。

その後ほとんど来た記憶がないが、一、二度飯田の町で飲み屋に行ったことがある。寂れた町にしては飲み屋が多いのには驚いた、フィリピン女性の多いのにもビックリ。

2000年から頻繁に飯田に来るようになった、4月の初めだ。アルプスが雪を被り、抜けたような真っ青な空。なんと素晴らしい景色なのだ、この眺めはどう表現すればいいのか、見たことが無いほど綺麗だ。昔の暗い記憶とは大違い、あれは記憶違いだったのか。

恵那山トンネルが完成し中央高速が全線開通したせいなのだろうか。人々の顔も明るく見える。天竜川の水も清く滔々と流れている。心が洗われるような気がするのは私だけだろうか？ 元善光寺にお参りした、帰りに麻績神社の枝垂れ桜を見た、樹齢300年とか、立派な桜だ。丘の上の美術館の安富桜も凄い。図書館横の赤門を入り合同庁舎の裏の夫婦桜も気に入った。この町は桜が凄い、大宮神社の元参道か桜並木も素晴らしい。昔のこの町は裕福だったのだろう、和菓子屋もたくさんあり、小京都といわれた意味が良く分かる。殿様が贅沢だったのだと思う、脇坂氏だったかな。おたふく豆は大好きだ。大名金つばも外せない。歴史の宝庫だ、この街は。それに引き換え高遠は、お城の桜は素晴らしいが質素な感がある。江島が幽閉されていた家を見た。焼き物はいいのがある。

5月にまた来た、桜は終わっていたが、なにやら派手な花が咲いている。

白あり、赤あり、桃色あり、すべて一本の木に混じっているものもある。ハナモモと教えられた。若葉の緑が萌え滾っている、明るい春だ、初夏の香りがする。

蕎麦屋に入った、ニッパチあり十割もある、悩んだが十割蕎麦の大盛りを注文する。美味しい。この町に来て私は蕎麦の味を知ったと言える。今まではなんとなく食べていた。元々うどん派だったが、今はもう蕎麦の方が気に入っている。

それにしても焼肉屋が多いのには驚かされる。昔は海が遠いので魚が食べられず、塩烏賊を食べたと聞いたので、居酒屋で注文してみた。なんとも言えないものだ。

この町には面白い食べ物もいろいろある。蜂の子、ざざ虫も食べた、昔の人の知恵はすごいと思う。イナゴの佃煮、これは東京でも昔食べた記憶がある。

蚕の繭のゆでたようなのを食べたが、ちょっと気持ちが悪かった。昔の淡白質の源なのだろう。

リニア新幹線が開通すると、どう変わるのか、良い事、悪い事いろいろ想定されるが、こんな良い町の自覚を皆で持ち、町の活性化に向け、それぞれの立場でアイデアを出していかななくてはならない。

都会では通勤時間が一時間以上のビジネスマンはごまんという、飯田では理解できないかも知れないが。リニアに乗れば品川まで45分、楽勝で通勤できる、十分可能な通勤範囲だ。実際に仙台から東京に通勤している人間は沢山いる、仙台は住みたい街の上位三位に入る。一時間以内で通勤できている。

私の知り合いで、自宅を仙台に移し家族はそこで生活し、自分は金曜夜戻り、週末仙台で過ごし、月曜朝東京に出勤する、都内に小さい部屋を借りている。帰りたければ何時でもすぐに帰宅も可能な生活だ。同じことは当然飯田でも言えるのではないだろうか。

中古の空き家はこの町にも結構あるはずだ、街を挙げて中古家屋に手を入れれば都会人好みのいい住処に再生できると思う。今後、高齢化社会で定年退職後の人口は増加する一方だし、田舎暮らしを望んでいる都会人は沢山いる。

若者も田舎で子育てしたい人間は結構いるが、問題は仕事だ、収入源を考えないとなかなか移住はできない。IT時代、在宅勤務が増加することは間違いない、そういう人間には最適だ。飯田の自宅でパソコンを活用し、月に数回東京にリニアで行く。快適な生活だ、子供ものびのびと山を見ながら育てられる。

佐久市の駅前が再開発されマンション群が目立つようになった。

新幹線、リニア新幹線は人々の生活を大きく変えてしまう。陸の孤島といわれた飯田は、東京から車で3時間、バスで4時間、それが品川まで45分になる、想像を絶することだ。買い物でも都心にすぐ行ける。大資本の店や企業が飯田に進出してくるかも知れない。飯田の店が衰退しないだろうか？人口は増加するのか、逆に減少するのか。どちらにしても、移動人口は大幅に増加し、町の形態が大きく変わることは確かだろう。

それに三遠南信道路もそう遠くない時期に全線開通すれば、更に移動人口や流入、流出は増加していくであろう。

この素晴らしい飯田の町の価値を皆が再認識し、残すべきものは存続させながら地域の活性化に努めなければならない。

我々の愛するこの町をどういう形で守っていくのか、どんな市街に仕上げていくのか？

時間はあまりない、一人ひとりがその意識を持ち公共団体とも協力をしていきたいものだ。

皆さんはこの飯田の町の特色は？といわれたらどう答えるのだろうか。

いいところは？名物は？観光スポットは？いいところ、いいものは沢山ある。しかし地域外、特に大都市に対するPRが不足しているのではないか？

地域内でも皆の認識もまだ低いのでは。

再度言いたい、この素晴らしい町の価値を再認識することで世間にアピール出来る。

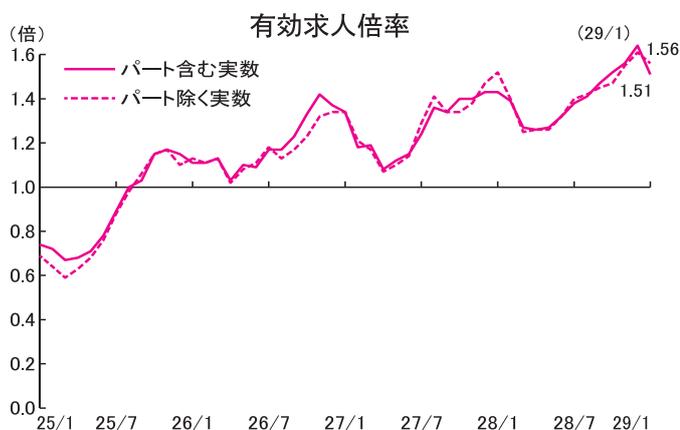
若者、馬鹿者、他所者の意見もよく聞き、地域の皆の共通認識を高め、理想の町作り構想を早急に掲げようではないか。私はこの町飯田が大好きだ。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

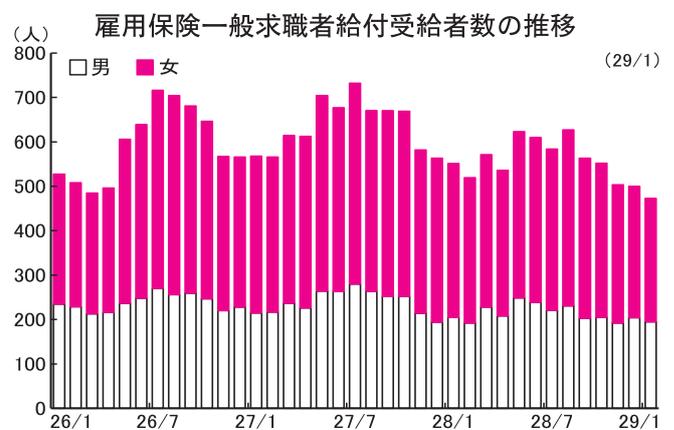
今回執筆を担当する当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見し、お話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 経営相談所（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



1月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.51倍と、前月から0.13ポイント下降。パートを除く実数も1.56倍で、前月から0.05ポイント下降している。



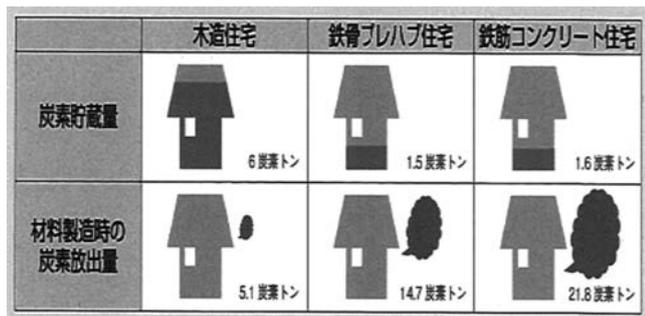
1月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は9人減少、女性も18人減少しており、全体では473人と前月から27人減少している。

(資料：ハローワーク飯田)

木造建築と森林、木材に関する統計

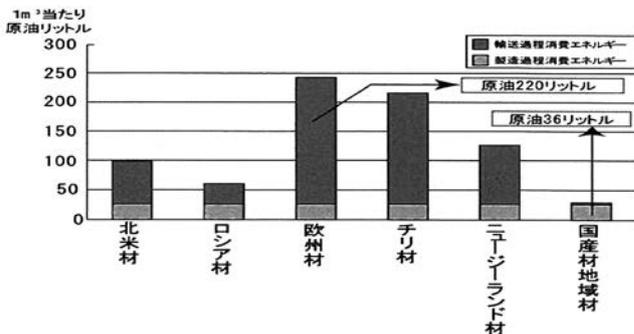
「鉄筋プレハブ住宅や鉄筋コンクリート住宅の約4倍の二酸化炭素を貯蔵」し、「製造や加工に要するエネルギーが少ないことから材料製造時の二酸化炭素排出量が少ない」(図1) 木造建築物は、国産材、地域材を利用することで「ロシア材の半分、欧州材の7分の1のトータルエネルギーで同等の木材を利用することができる」(図2)とされている。

図1 住宅1戸当たりの炭素貯蔵量と材料製造時のCO₂排出量



(資料：林野庁「平成27年度森林・林業白書」)

図2 輸入材と地域材の調達トータルエネルギー



(資料：文部科学省「木の学校」)

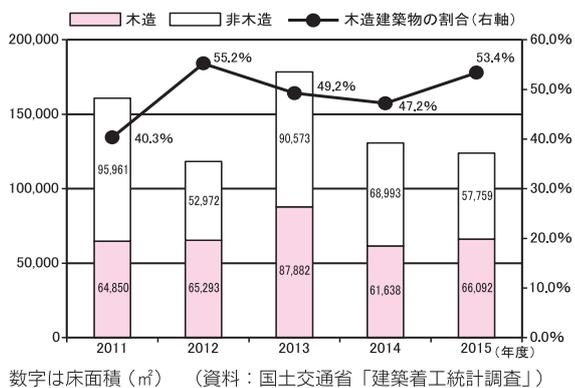
また、木造建築物の建築素材を供給する森林は、二酸化炭素の吸収や化石燃料代替エネルギーとして利用されることで環境保全機能を果たすほか、水源涵養、生物多様性保全を始めとする多面的な機能を有する。今回は環境に関する統計調査として、「公共建築物木材利用促進法」の施行や防耐火性能、耐震性能を確保できる構造部材、システムの開発など追い風の吹く「木の建築」と、木材、森林に関する統計をご紹介します。

● 飯伊地区における木造建築物床面積の推移

国土交通省の建築着工統計調査によると、2015年度の飯伊地区における住宅を含む木造建築物の床面積は66,092㎡で、全建築物床面積の53%が木造建築物で占められていた(図3)。なお、グラフにはないが、棟数では全建築物の72%が木造建築物となっている。

過去の推移をみると、当地区では、4～5割の建築物が木造建築物で占められている。

図3 飯伊地区における木造建築物床面積の推移



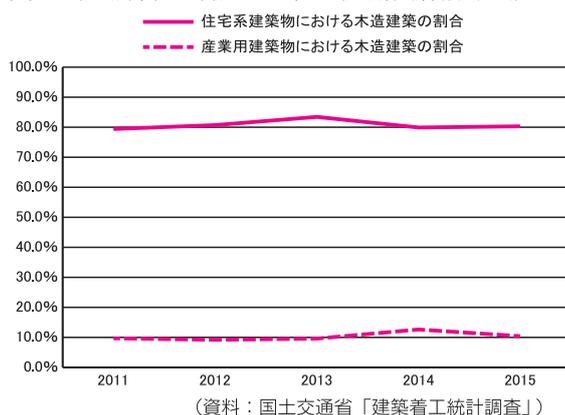
数字は床面積(㎡) (資料：国土交通省「建築着工統計調査」)

● 長野県の、用途別木造建築物の推移(床面積比)

2015年度と同調査によると、長野県の住宅系建築物のうち80%が木造建築物で占められている。一方、産業用建築物では、木造建築物が占める割合は10%となっていた。

過去5年間を見ても、住宅系建築物では木造建築物が8割程度を占める一方、産業用建築物で木造建築物が占める割合は1割程度で、「開拓できる市場は大きい」との見解もある。

図4 用途別長野県の建築物における木造建築の割合(床面積比)の推移



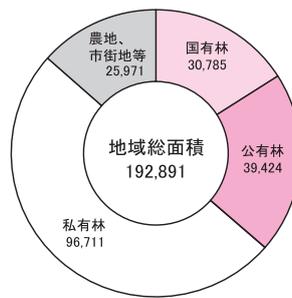
(資料：国土交通省「建築着工統計調査」)

● 飯伊の森林の現況

飯伊の地域総面積は192,891ヘクタールだが、その87%にあたる166,920ヘクタールが森林に覆われており、当地域は豊富な森林資源に恵まれている。

公有林と市有林を併せた民有林で樹種別に資源面積を見ると、カラマツといえは信州カラマツと言われるほど長野県のカラマツのイメージは強いが、下伊那に関してはヒノキの割合が高い。

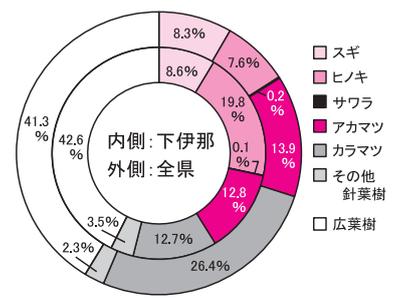
下伊那地域の森林現況



単位：ha

(資料：長野県「民有林の現況(平成28年)」)

民有林の樹種別構成割合



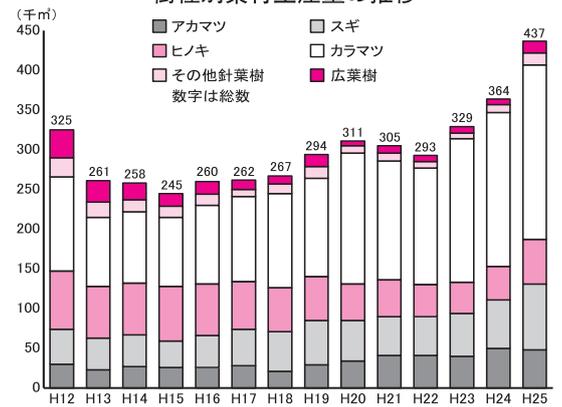
(資料：長野県「民有林の現況(平成28年)」)

● 長野県の素材生産量の推移

民有林の蓄積の増加や伐採適齢樹木の増加など「森林資源は人工林を中心に成熟過程にある」(長野県「平成25年度林業統計書」)と言われるが、林産物の中で木材の素材となる丸太の生産量(素材生産量)を見ると、長野県では木材価格の低迷、生産経費の増高等のため昭和60年以降減少傾向で推移してきたが、平成25年は43.7万m³で対前年比120%となっていた。樹種別にはやはりカラマツが22万m³と最も多い。

また、26年4月1日現在で過去1年間の長野県のカラマツの成長量は59.4万m³だった。従って、長野県のカラマツの場合、素材生産量は1年間に成長する量の37%に過ぎない。

樹種別素材生産量の推移



(資料：長野県「平成25年度林業統計書」)

● 飯伊地域の木材の流れ

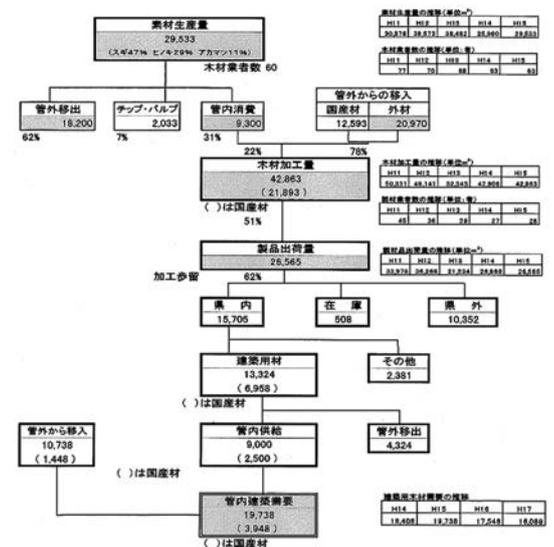
多少古い報告書だが、飯田市と飯伊森林組合が平成19年1月にまとめた「飯伊地域林業将来ビジョン」によると、管内の素材生産量は2.9万m³で、うち管内消費量は9千m³であり、大部分は管外へ移出されているという。

また、木製品の出荷量は2.7万m³で、うち建築用材の管内への供給量は9千m³と推定されているが、これは管内の木造住宅等の建築需要量約2万m³(年間の木造住宅約600棟分)の50%にも及ばないとしている。

● 終わりに

森林づくりでは、「間伐が切り捨てから搬出になったため森林整備費用が増加したが、間伐材の価格が低く、整備費用の増加もないため実施面積を減らしている」「ニホンジカの食害」「木材価格が安い」「稼ぎにならず仕事がつい」「木材ペレットは原油価格との競争が激しい」「バイオマス発電が始まったら土場からペレットやチップ用材料がなくなった。需要側と供給側の連携が良くない」「自家林家の育成は非常に難しい」「現場をやる人がいない」(長野県下伊那地方事務所平成28年度みんなで支える森林づくり南信州地域会議第1回議事録)といった問題があるといわれる。こうした中、根羽村では、森林組合を中心に、森林整備や伐採搬出する1次産業、住宅用材に加工する2次産業、用材加工した製品をお施主に直接届ける3次産業までを管内で完結できる「トータル林業」の取組で、就業機会の確保や定住促進を図る政策を推進している。

木材の流れ(現状)(単位：m³)



数字はH15長野県木材統計による推計(飯伊地域林業将来ビジョン)

(文責：飯田信用金庫経営相談所 中村 達)

斜視 (十十メ) 力のすすめ (32)

しんきん南信州地域研究所
主席研究員 井上 弘司

「日本の平成27年合計特殊出生率が1.46と10年前の1.26より向上」と書けば出生者が増加していると思いがちですが、実は生まれる赤ちゃんの数は増えていません。例えば、昭和41年(ひのえうま)は稀に見る低出生でしたが、約136万人生まれており、平成27年の約101万人よりも出生者数は多いのです。「このまま推移するとリニア新幹線開通後の2030年には、1億1,662万人で高齢化率は32%になると試算されます」と書けば未来に暗雲が漂います。

つまり目の前の皿に乗った見栄えの良い料理を食べているが、自分で判断して食べているわけではなく、テレビで放送された基準で自分の口に合わなくても美味しいと思い込んでしまう情けない状況と同じで、様々な場面で登場する数字を信じて疑わないと、実態とかけ離れていても自分を納得させてしまう怖さがあるものです。

大都市から地方への移住が増加していると喧伝されていますが、2015年では東京圏の転入超過が119千人で地方圏は△109千人と、相変わらず東京圏への転入が多い実態があるわけで、「ひと・もの・金・エネルギー」を貪欲に喰らい尽くす東京圏と喰らい尽くされる地方という構図に変わりはありません。

さすがに政府も人口減少に歯止めがかからないことや、東京一極集中が加速(4年連続増加)していること、さらに東京圏と地方の「稼ぐ力」の格差が出ていることなどの問題を是正するため、平成29年には新たに「ライフスタイルの見つめ直し」を行う施策を打ち出すとともに、「地方創生版3本の矢」として「自助の精神」をもって意欲的に取り組む自治体を積極的に支援するとしています。

では南信州では、地域の問題にどのように向き合い、課題を解決していけば良いのでしょうか。

■「無いものねだり」の意識を変えましょう

子どもが高校へ通う年代になると街に出て行き、後に残るのは高齢者と空き屋、遊休農地という様相です。18歳を過ぎれば大学進学などで地域外へ流出するのはやむを得ませんが、問題は卒業後ふるさとに帰りたくても地域に雇用の受け皿がないことです。だから企業立地促進だと議員さん方は熱弁を振りますが、例えば「立地したら200人ほど、年齢や男女のバランス良く用意できますか」などと企業に聞かれます。既存の地場産業は人材が少ない中でやりくりしていて引き抜きはできませんから、企業立地担当の行政職員はいきなり言葉に詰まり、大丈夫ですとは言えません。かくして立地話をご破算というケースも多々あるのです。表面的で安易な企業立地活動の前に、地域課題を解決しておくことが重要です。

移住・定住促進も同様で、「誰でも来てください」という情報発信は意味がありません。「シティセールス」と称して東京のイベントに参加しても、他の自治体よりよほど優れていて差別化できていない限り、訪問者の目に魅力ある地域とは映りません。かくして「いくら差し上げます」「住宅を用意します」の競争になるわけです。

企業も人も必然性がなければ我が地域にはやってこないということを再度理解しておくことが大切です。

必然性が最も大きいのは、ここで生まれ育った子弟です。縁もゆかりも無い人や企業を欲しがる「無いものねだり」はそろそろ終わりにしませんか。

そのためには、地方創生に、政府に指導されて行う受動的なものではなく、帰ってきて暮らすための新しい「なりわい」づくりが必要なアイテムとなります。

南信州では、グローバリゼーションのスケールメリットにはない自然や食、文化の多様性から暮らしを享受する「暮らし方」を内外に伝えていくことが重要となっていくでしょう。

■豊かな暮らしを再度考える

暮らしに便利さを求めて、若者がどんどん都市部を目指した結果が東京一極集中です。都会が良いと思う理由で多いのが、交通面やショッピング、病院などの「便利さ」と「娯楽が多い」ところです。特に高齢者や子育て世代は、病院が少なく不安を感じています。また「田舎には刺激が無くて退屈」とか「田舎の濃密な人間関係が耐えられない」という意見もあります。たとえ保育園に入れない子どもが家庭に居ても動かないし、家賃が高かろうがすし詰め通勤地獄だろうが転居したいと思う世帯が少ないのは、それが「豊かさ」の基準となっているからです。

逆に、田舎が良いと思っている方々は、「空気や水が美味しい」とか「新鮮で安全な野菜が食べられる」「のんびりと過ごせる」といったことを理由に挙げることが多く、暮らすというよりは滞在するには良いところといった感覚でしょう。

こうした状況の中で多くの自治体が、移住世帯に〇万円交付とか、新築住宅に最大〇万円の補助などの陳腐な地域・行政間競争に鎬を削っています。「ふるさと納税」については、さすがの過熱ぶりに総務大臣も制度変更を示唆しました。若者はおろか高齢者まで移住・定住させようとするなりふり構わない施策は、どこまで将来を見据えているのでしょうか。

本当の豊かな暮らしとは何でしょう。かつてテレビが普及しだした頃は、多くの国民が米国の中流家庭ドラマに憧れ、自家用車や三種の神器(テレビ、冷蔵庫、洗濯機)を所有することが夢でした。最近では、できるだけ物を持たない生活こそ、心豊かな暮らしだとする人たちも増えています。つまり「豊かな暮らし」の尺度が多様化しているわけで、人間の孤独感や疎外感から心の矛盾を解消させるのに田舎への移住が選択肢となっているわけです。こうした人たちは、稼ぎは二の次で自分の存在意義を問える場所に移住・定住するのです。ところが田舎に来てみると、田舎を肯定しない一部の人がいて、なおかつ声も大きい傾向があって、せっかく田舎に夢を抱いて移住してきた人と対立してしまい、双方が不幸な状況に陥っている地域すらあります。

リニア(直線的)な豊かさは昭和の時代に絶頂期を迎え、経済の低迷と共に豊かさの基準は変わりました。社会が決めた価値基準から、個々の感性に伴う新たな価値基準を追い求めだしたのです。

人の幸福は分からないものです。端から見れば可哀想と思えても、本人は極めて前向きで肯定的に生きていることも多いでしょう。移住者に話を聞いたり寄り添うことで、自身が暮らしている場所が必ず「豊か」に見えてくるはずです。元々の住民だけでなく移住者を含めて、そこで暮らす一人ひとりの生き方の多様性を認め合えれば、その地域には定住者が増えると他地域の事例を見て確信しています。

■住民の暮らし向上が観光振興になる

地方創生で、新たな観光組織（DMO）創設が目玉になっています。インバウンドやりたけりゃ組織を作れ〜！との政府の号令で、地方自治体が助成金貰えるならと慌てて手を挙げているのです。

南信州には、この観光庁の施策の元となった「南信州観光公社」があります。当時の先見性ある飯田市職員の熱意の賜といえます。私が係わった「ワーキングホリデー」も平成29年度の総務省予算に「ふるさとワーキングホリデー」と堂々と登場しました。

どちらの仕組みもそうですが、飯田市では国予算がなくても地域に必要なことは単独でも行ってきましたから、国が些末な戦術を提案し助成金まで付けるということに、地方自治体の自立を奪うのではという危惧を持っています。

地域のプラットフォームは助成金や補助金がなくても地域を守り発展させるための必然の組織です。しかしながら急場しのぎで柱も危うい建て屋では、ちょっとした観光客増加のそよ風で倒れます。政府のインバウンドで大騒ぎに一緒になってお祭りワッショイでは、地元には利益は到底生まれません。元々受入母体があり観光協会もしっかりしている既存の大型観光地であれば、観光庁が推進するDMOは組織の梃子入れにもってこいの施策でしょう。しかし、今までまともな組織が無くノウハウも持たない地域や、観光の取り組み自体おざなりにしてきた地域まで、インバウンドを受け入れたいとこの制度に乗っかって補助金を取りに行くのは、箱を作って中身が何も無い状態と同じです。

以前書きましたが、私はRMC（Regional Management Corporation）を進めています。RMCは、産業・福祉・教育や暮らしなどに潜む様々な地域課題を解決する組織として、産学官金のほかNPOや任意団体など多様な主体の参画を促し、横断的・総合的に調整しプロデュースする役割を担うことが本旨です。特に地域に不足する人材、知識、デザイン、マネジメント、資金調達、連携・交流・異業種マッチング・販路開拓などのネットワーク構築等のリソースを補填することが目的です。

「公益任務なのになぜ稼ぐ必要があるか？」それは行政依存、補助・助成金依存から抜け出て自立することが大切だと考えているからです。その稼ぎ頭がツーリズムで、情報の受発信を一元化して新たな武器を創ることなのです。地域の担い手問題でもこうした組織が正しい活動を展開すれば解決の道は見えてきます。地域住民を当事者に、地域のあらゆる素材を結集して課題解決を図る組織をRMCと考えても良いでしょう。

自分たちでできることは自分たちで実施することが自らの地域を暮らしやすくする特効薬だと実感できれば、より良い住民サービスの方向が変わり、従来では行き届かなかったところに光を当てる行政サービスに変わっていくでしょう。

■リーケージ問題を解決するバイローカル運動

過疎地域を中心に地元店舗が消えていくのは、買い物客の絶対数が減っているという人口問題だけではなく、住民が地元商店で買い物をしなくなったことにも起因しています。

これに危機感を持った欧米の地方では、「バイローカル運動」が盛んに行われています。バイローカルとは、地元の商店で買うことが良質な商いを育て、地域の魅力を増すことにつながるという考え方で、米国では各家庭の消費の10%を地元店にシフトすれば地域の雇用や景気を引き上げられるとして「Think Local（地域を考える）」をキャッチフレーズに、地元商店を住民で守っています。

顧みて南信州の住民は、自分たちの地域の商店を守るために努力しているのでしょうか。もしかしたら店舗が消えて不便だから買い物難民対策を行政で何とかしろなどと騒いだりしていないでしょうね。

地域活性化では「リーケージ問題」を解決することがとても大事です。リーケージとは「漏れる」という意味で、地域外に稼いだ金が流れることです。ローカルではない外部大手資本の店舗で買い物をすることは、その日のうちに自地域の金が東京などに漏れていくことなのです。飲食店はどれほど地産地消を心がけているでしょうか？他地域から仕入れれば、その分は他所へ金が漏れるのです。建築では地元材をどれほど使用しているでしょうか？最近では相続により預貯金が外部へ漏れる事態も顕著になってきました。

事程左様に様々な場面で、地域の金が外部へ漏れているのです。資金が地域内で還流しない限り、どのような特効薬を投じても地域は活性化しないのです。

ではどうすれば解決するか。

手っ取り早く漏れを防ぐには地産地消です。そして地元店舗で買い物をするのは、個人も企業も域内調達率を上げれば、地域に資金が還流して全体の底上げを図ることができるわけです。

新しい地域社会デザインは、地域の暮らし方の価値創造です。グローバル経済のスケールメリットにはない、自然や食、文化の多様性から暮らしを享受する「暮らし方」を内外に伝えていくことが重要です。日々の営みからできるリーケージ対策やバイローカル運動は、個人の生活を保障し地域の暮らしを存続させる運動です。

南信州をはじめ全国の自治体が策定している総合計画のキャッチフレーズに「人」と言う文言が入っています。地方が、インフラ整備に増して人財のストックを行う必要があることを痛切に感じているのでしょう。

一時的な人財のリーケージはやむを得ませんが、地域と縁もゆかりも無い移住者を呼び寄せる前に自分の子弟をUターンさせることに、家庭も地域も行政も傾注すべきです。

執筆者 井上弘司（いのうえ ひろし）：1952年飯田市生まれ。飯田市エコツーリズム推進室長、産業経済部企画幹、企画部企画幹を経て2009年3月退職。現CRC地域再生診療所所長、NPO法人しんきん南信州地域研究所主席研究員。観光カリスマ百選（国土交通省）、地域活性化伝道師（内閣府）、地域力創造アドバイザー（総務省）、地域再生マネージャー（ふるさと財団）。

「NPO法人 しんきん南信州地域研究所」は、地域の情勢分析や政策提言、情報発信などを旨として、飯田信用金庫を主体として設立された地域シンクタンクです。地域の皆様の交流の場としても広く開放しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

■所在地 長野県飯田市知久町1-9 まちカンビル2002
■在籍研究員 井上 弘司 安藤 隆一
■TEL 0265-59-7701
■FAX 0265-59-7701
■E-mail think-t@mis.janis.or.jp